

平成24年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

| | | | |
|---|-----|---------------|-------------------------------------|
| 分類 番号 | A18 | 取組 名称 | 体感温度の認知を活用した健康と環境に配慮した行動の 促進の可能性 |
| 研究代表者：生命環境科学研究科 | | 職・氏名： 教授・松原斎樹 | |
| 研究担当者： 京都府立大学（松原斎樹，柴田祥江，石田正浩，森下正修） 外部分担者・協力者（木原浩貴氏，竹花由紀子氏，宮脇好子氏ほか） | | | |
| 主な連携機関（所在市町村，機関（部署）名） NPO 法人京都府地球温暖化防止活動推進センター，京都府長岡京市教育委員会など | | | |
| 【研究活動の要約】 | | | |
| <p>冬期に「ヒートショック」，夏期に熱中症により死亡する高齢者が増加しており，死者数は交通事故を上回ると言われている。これを避けるためには，温湿度の実態を測定して，現状を把握するとともに，居住者が温湿度を把握して，適切に対処できることが重要である。寒暖の差が激しい京都では，この問題は特に対処が必要である。また，同時に温暖化対策としての省エネルギーに配慮することも求められる。この観点から以下の3つの調査を行った。1. 住宅での夏期と冬期の温湿度の実態と住まい方（暑さ・寒さを防ぐ工夫）調査，2. 集合住宅の窓を簡易断熱リフォームし，快適性・省エネルギー性がどれだけ向上するかの調査，3. 空調が導入されている小中学校の児童・生徒，教員，保護者の意識調査</p> | | | |
| 【研究活動の成果】 | | | |
| <p>熱中症対策には関心が高いが，夏期室温の平均値 29℃以上，最高気温 36℃の高温下で生活をしており，熱中症発生が危惧された。また，居間の温度を 32℃（平均値）と想像していても，エアコン（冷房）使用を控えているなど，適正使用を促す必要がある。冬期トイレ平均温度 5.1℃，脱衣室 4.2℃と低い例や，暖房時の居間は 25℃以上の時に脱衣室は 6.3℃と温度差が大きい例も見られた。年代が高いほど脱衣所およびトイレの寒さに気づいていないこと，脱衣所やトイレの寒さを認識していても我慢している実態が明らかとなった。断熱による住宅内の温熱環境改善，夏期にはカーテンブラインドによる日射遮蔽，冬期にはすきま風を防ぐなど住まい方の工夫が行われていた。住宅内の体感温度の認知は，節電の時期と重なり，温度，湿度に対する関心がより強くなった。服装の工夫により，節電も可能と感じた。</p> <p>トイレ，脱衣所の温度が確認できて，ヒートショック対策の参考になった。など「我慢による省エネから工夫による省エネ」への転換を情報発信していくことの重要性が確認できた。</p> | | | |
| 【研究成果の還元】 | | | |
| <p>「2012 年度 ACTR 『体感温度の認知を活用した健康と環境に配慮した行動の促進の可能性』 成果報告会」 H25/3/8 京都府立大学合同講義棟第5講義室 関係者等約 30 名 学会発表：(1). 柴田祥江ほか：住宅内温熱環境の実態と居住者の意識に関する研究（その1，その2）日本生気象学会雑誌，49(3)，2012. (2). 北村恵理奈ほか：窓の簡易断熱及びすだれによる遮熱が夏期の室内温熱環境と居住者の住まい方に及ぼす影響，第36回人間生活環境系シンポジウム報告集，17-20，2012 公立小中学校への空調機の一斉導入に関する研究～PFI 手法の有効性及び省エネルギー効果の評価～」日本建築学会環境系論文集，第77巻 679号，745-751，2012 等</p> | | | |
| 【お問い合わせ先】 生命環境学部環境心理行動学（建築環境工学）研究室 教授：松原斎樹 E-mail: n_mats@kpu.ac.jp | | | |

参考（イメージ図，活動写真等）

1. 窓の簡易断熱とすだれによる遮蔽の施工例



写真1 簡易内窓+すだれ設置



写真2 ベランダにすだれ設置

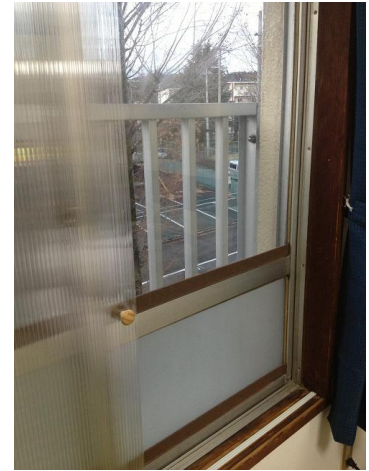


写真3 簡易内窓

2. ACTR成果発表会 平成25年3月8日 京都市立大学合同講義棟第5講義室

